

## ご質問等への回答

### 1 ワークショップについて

- 地元住民といえども全ての施設の利用実態はわからないし、再編方針案の内容を十分に理解しているとも言えない中で議論をするのは難しい。施設の利用状況に関する詳細な情報や市が今後施設をどうしていきたいかという具体的な提案を出してもらってから話し合いをした方が良い。
- 施設・設備の利用についての詳細がわからない。施設の管理者からの現状と課題についての情報がほしい。(ふりかえりシート)
- 観光施設については細かいデータがほしい。(天湖森、林林、楽今日館)。(ふりかえりシート)
- 第1回ワークショップのまとめを読むと、猪谷プールや公民館などについて人によって認識が異なっている意見があった。施設の利用人数や利用実態などの情報を共有する必要があるのではないかと。

#### 【回答】

施設の再編案を検討する際には、その施設の特性を客観的に評価する必要があります。そのためには、もちろん実際に利用している方のご意見も重要ですが、あまり利用されない方からのご意見もまた重要であると考えています。

また、施設を評価するために必要となる情報のうち、公共施設の築年数、稼働率、年間利用者数、コスト、施設概要については、第1回ワークショップ資料の「資料5 細入地域のまちづくりと公共施設の状況」及び「参考資料 施設概要」にまとめていますので、ご確認ください。それ以外の詳細な情報については、ご要望に応じて提供させていただきたいと思えます。

なお、第3回ワークショップでは、これまでに皆様からいただいたご意見を踏まえて市が整理した再編方針案と再配置案を提示しますので、これに対するご意見をいただきたいと思えます。

- ニュースレターにはワークショップで出された個別の意見を載せるよりも、全体的な傾向をまとめて掲載する方が良いのではないか。
- ワークショップ資料が送付されてくるのが遅く、事前に資料を確認することが難しい。ニュースレターは早い時期に発行されているのに、なぜこんなに遅かったのか。もっと早く送ってほしい。

【回答】

ニュースレターは、ワークショップに参加されていない方にも、どのような議論があったのかが分かるよう、地域の全戸に配布しているものです。これに全体的な傾向をまとめて掲載しますと、ワークショップ内で実際にどのような議論が行われたかが見えにくくなってしまふことから、いただいたご意見をそのまま掲載しております。

なお、資料の送付につきましては、今後は、開催の1週間前をめどに送付させていただきます。

- 若者の参加が少ないからニュースレターの配布等により意見を求めると言っているが、それでは寄せられる意見の数が圧倒的に少ないし、出席している人への責任や負担が大きいように思う。細入地域に住んで年数の浅い方と、長く住んでいる方では意見は違うだろうし、性別でも違うと思う。そういった点を考慮して、参加者の選定を少し検討してほしい。  
(ふりかえりシート)

【回答】

ワークショップでは、継続的に参加者の皆様に参加いただくことで、議論を深めていきたいと考えています。既に2回のワークショップを行っており、今後、参加者の追加選定は行いませんが、若い方をはじめ、様々な立場の方のご意見を把握したいと考えております。

第3回開催以降にオープンハウスなどを通じて把握し、地域別実行計画を策定する際の参考とします。

- 短期的な取組みとして中核型地区センターの機能を移転し、建物を解体する場合と、耐用年数ぎりぎりまで利用した後に解体する場合の費用対効果をシミュレーションした上で、どちらの案にするかを判断した方が良い。

**【回答】**

細入中核型地区センターについては、あと3年で耐用年数が到来するほか、耐震基準も満たしておらず、維持することは困難なため、議論の対象としていただいております。

今までのワークショップでは、地域の課題や特徴、まちづくりなど、より地域の実情を反映させるため、主に各施設の重要性や機能維持の方策について重点的に議論していただけてきました。これは、「費用対効果」だけの視点では、それぞれの生活圏域において、公共施設として必要な機能が必ずしも維持する方針にならない可能性があるからです。

また、将来的な公共施設の配置についての比較評価については、第3回ワークショップで具体的な再配置案を提示させていただき、今後議論していただきます。

- 若者の意見をニュースレターやオープンハウスで募るとあるが、そもそもニュースレターを見ていない若者（子育て世代や独身世代）は多いと思う。オープンハウスなどを行っても平日の昼間にわざわざ休みをとって見に行く若者は少ないと思う。本当に意見を募りたいのであれば、曜日や方法を検討する必要があると思う。（ふりかえりシート）

【回答】

オープンハウスの開催日及び開催場所の選定の参考とさせていただきます。

また、オープンハウスの開催場所として、ふさわしい地域内の施設がありましたらご提案いただけると幸いです。

- 「民間ノウハウを活用」と言ってもいろいろなことが考えられるので、住民と市で共通認識を持つためにも具体的な内容を説明してほしい。

**【回答】**

ご指摘のとおり、民間ノウハウの活用にはいくつもの手法がありますが、個別案件について、市が特定の手法を想定しているわけではありません。しかし、一般的にはハード面（施設の整備等）に関する民間ノウハウ活用と、ソフト面（施設運営等）に関する民間ノウハウ活用が考えられるところであり、細入地域では主に後者の手法の活用が検討されるものと考えられます。

民間ノウハウ活用の一例としては、小規模な商業施設を新たに設置することで、既存の施設との連携・相乗効果を図る手法や、施設の運営そのものを民間企業が担うことで、様々な企画立案や都市部との連携、また、コスト削減を図るといったことが可能になるのではないかと期待されます。

- 市内に細入北部コミュニティセンターと似た規模で、民間や地元へ譲渡して運営がうまくいっている良い事例があれば、参考にしたい。

**【回答】**

八尾地域において、平成 31 年 4 月、八尾健康福祉総合センター黒田分館が地元へ無償譲渡されました。従来は使用にあたって書面の申請書の提出が必要でしたが、現在は電話連絡で使用できるような運用がされていると伺っています。